

資料 アンケート調査結果（抜粋）

【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（はつらつ度アンケート調査）】

1. 調査目的

要介護状態になる前の高齢者の生活状況を把握することで、地域の課題を特定し、現行の介護予防・日常生活支援総合事業を評価するとともに、地域の課題に応じた健康づくりや介護予防事業の検討を行い、舞鶴市第9期高齢者保健福祉計画の策定に活かす。また、筑波大学と共同で進める介護予防に関する調査研究事業の資料としても活用する。

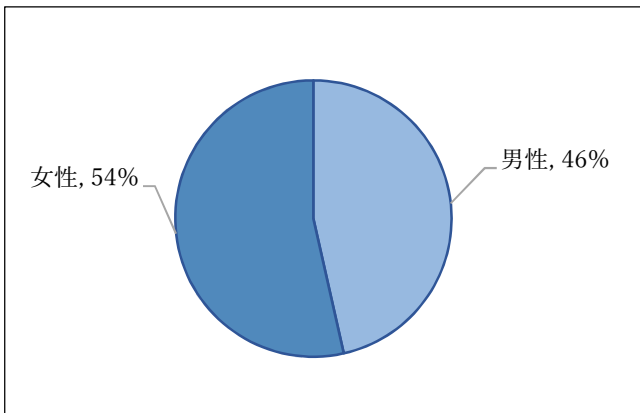
2. 実施概要

対象者	配布数	回収数	回収率	調査時期
65歳以上の市民のうち、要介護1～5の認定を受けていない者	20,855人	9,252人	44.4%	令和5年 1月
内 65歳以上の市民	19,258人	8,557人	44.4%	
訳 65歳以上の市民のうち要支援認定者・事業対象者	1,597人	695人	43.5%	

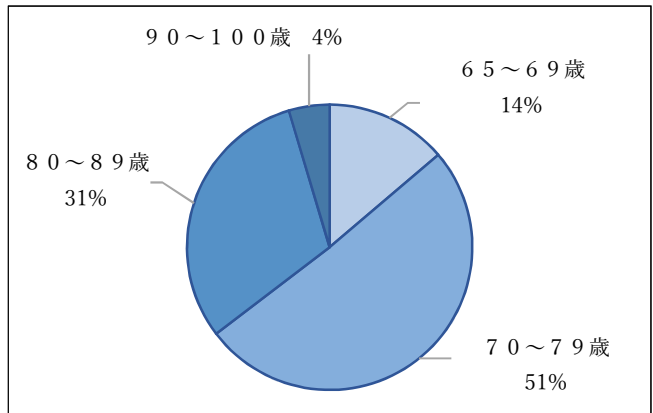
3. 調査結果

(1) 属性

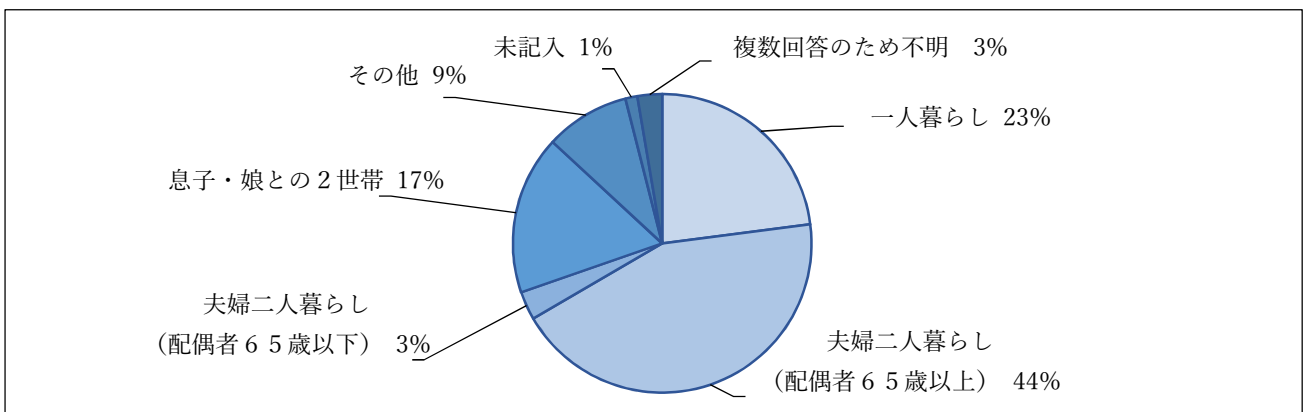
〔性別〕



〔年齢〕

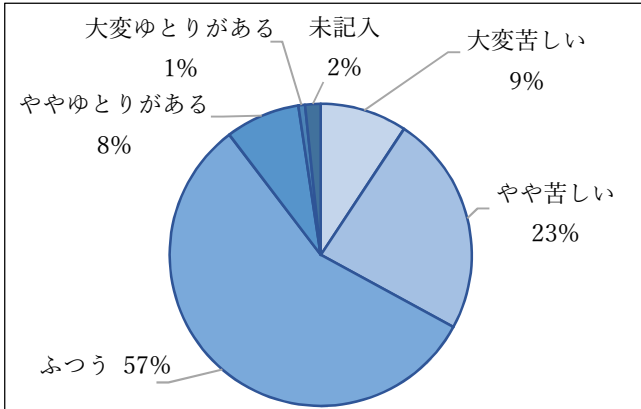


(2) 家族構成



独居と高齢者夫婦を合わせると67%を占め、高齢者世帯が全体の7割近くになっている。

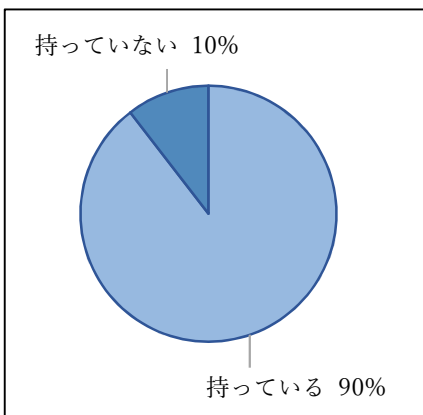
(3) 経済状況



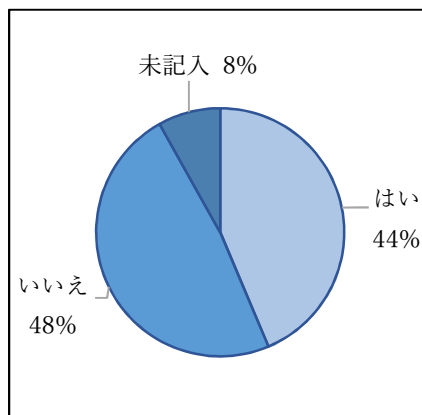
経済状況は、「ふつう」が5割を超えている一方、約3割が「大変苦しい」「やや苦しい」と回答している。

(4) 電子機器の活用状況

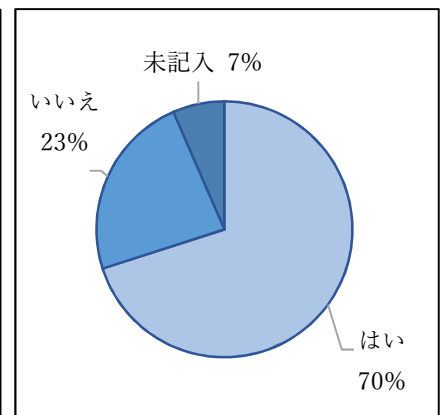
〔電子機器を持っているか〕



〔インターネットを使用しているか〕



メール(LINE)等を使用しているか

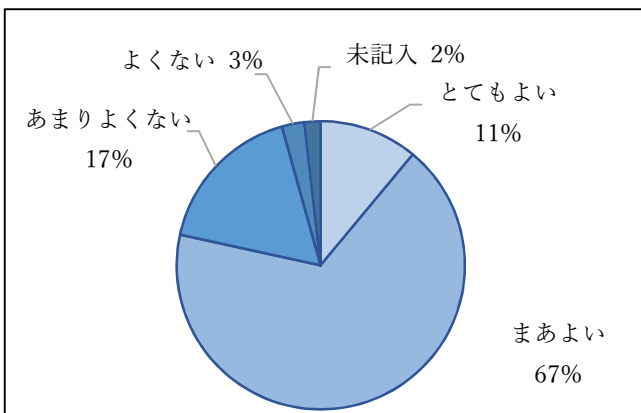


スマートフォンや携帯電話、パソコン等の電子機器を持っていると回答した方が9割を占めており、インターネットを使用している方が44%、メール等を利用している方が7割となっている。

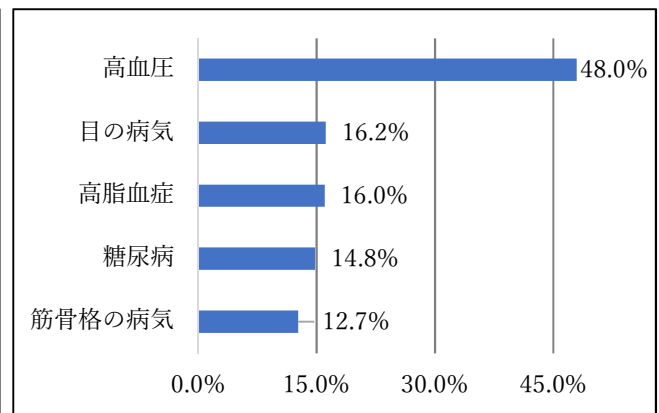
今後、本市が実施する高齢者向けの情報発信について、市ホームページへの掲載やメール、SNSによる発信等についても積極的に活用していく必要がある。

(5) 健康について

〔主観的健康観〕

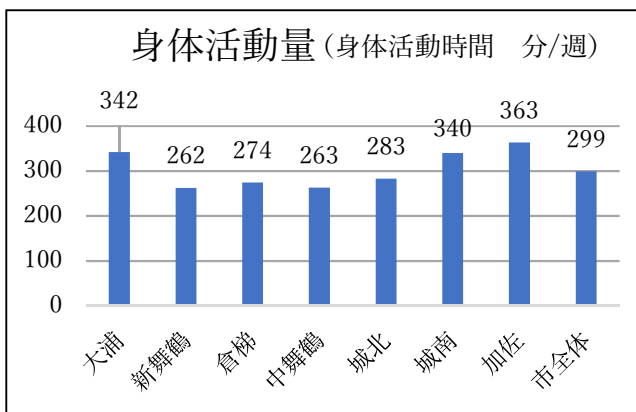
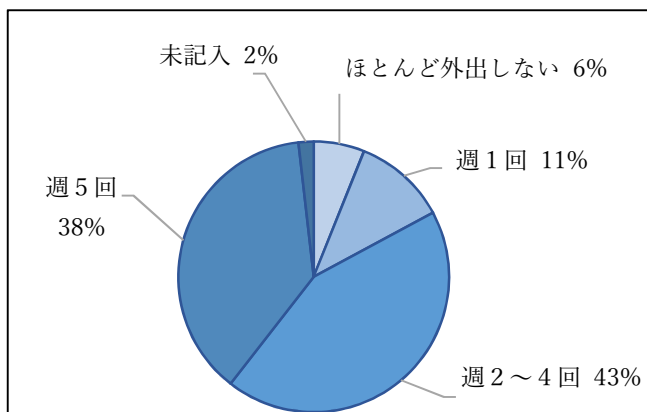


〔治療中又は後遺症のある病気（上位5項目）〕



主観的な健康観は「よい」と感じている人が78%、「よくない」と感じている人が20%となっている。治療中又は後遺症のある病気としては、「高血圧」が最も多く、次いで「目の病気」「高脂血症」「糖尿病」「筋骨格の病気」の順となっていた。前回調査時より糖尿病が増加している。

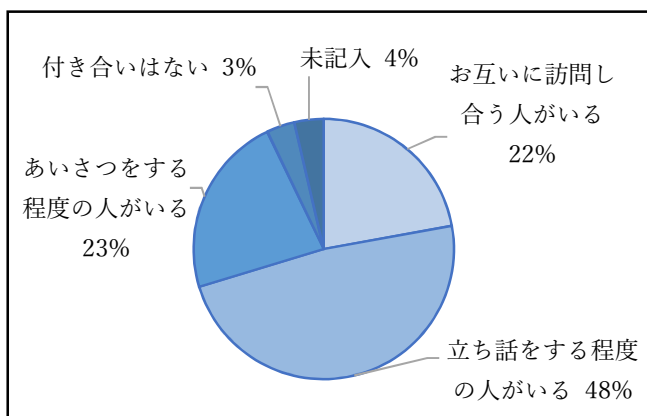
(6) 外出の状況（健康のために外出する頻度）



健康のために外出する頻度は、「週1回以上」が90%以上を占めている。日常生活圏域毎の身体活動量をみると、「大浦・朝来・志楽」「城南」「加佐」で高く、高齢になっても農作業や漁業等、役割のある圏域で活動量が多くなっていることがわかる。

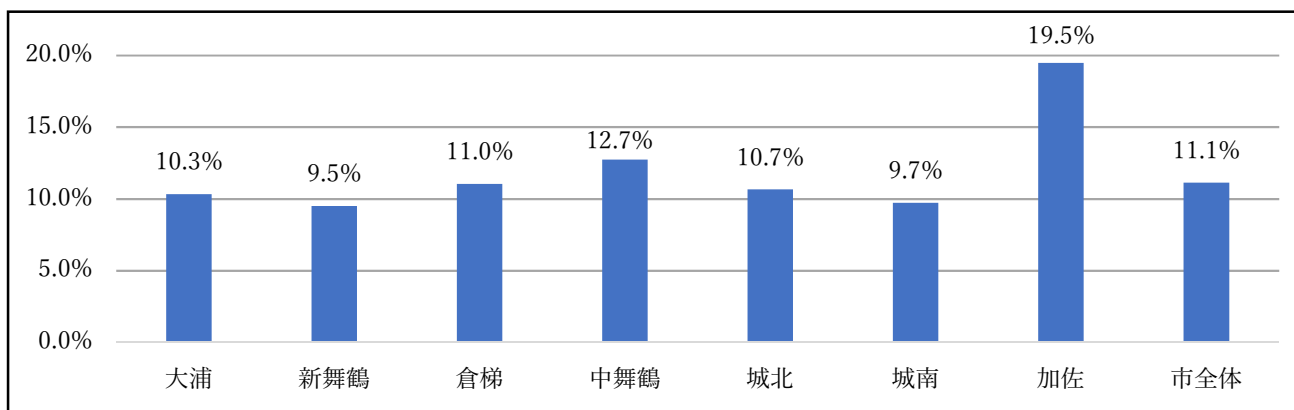
(7) 社会的交流

[近所の方とどの程度付き合いがあるか]



近所の方とどの程度付き合っているかについては「訪問し合う」「立ち話をする」「あいさつをする程度」など様々ではあるが、ほとんどの人が何らかの付き合いがあると答えていた。

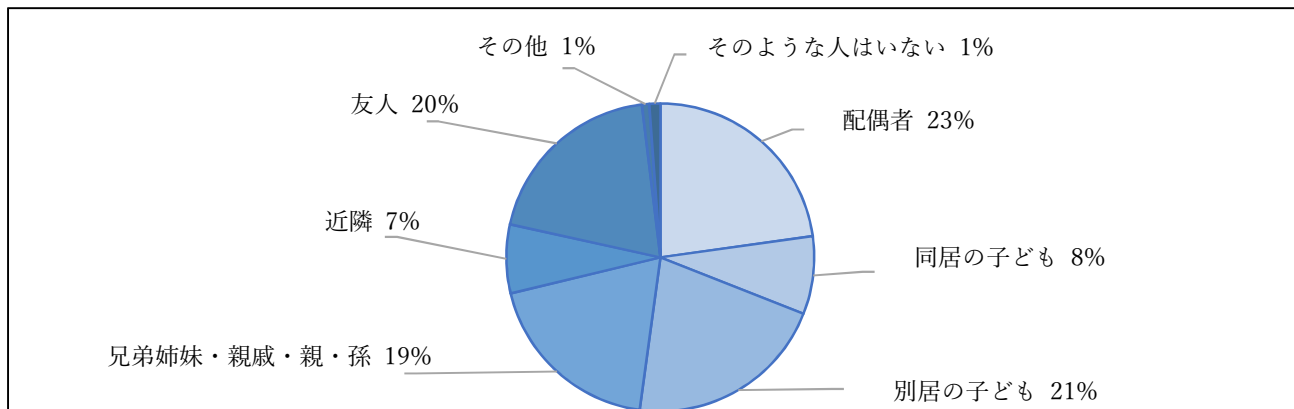
[通いの場への参加率]



通いの場への参加率は、加佐圏域で特に多い。前回調査時と比べると、全体的に参加率が下がっており、新型コロナウイルス感染症拡大の影響も一因と考えられる。

今後も、通いの場の継続支援に取り組み、社会的交流の場を増やしていく必要がある。

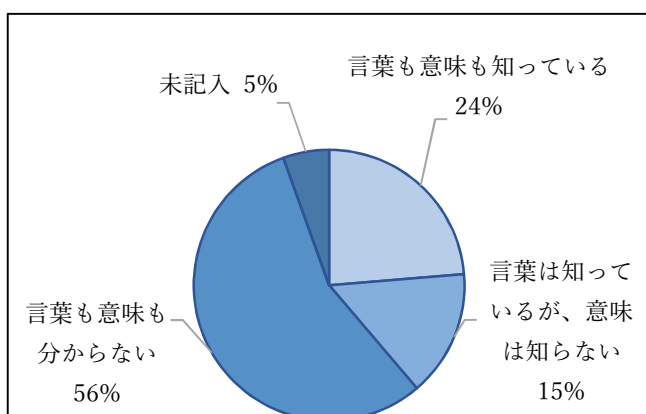
(8) 助け合い（心配事や愚痴を聞いてくれる人）



心配事や愚痴を聞いてくれる人としては、配偶者・子ども・親戚などを合わせると、7割を占めている。親族以外では、友人が20%、近隣が7%となっている。また、1%とわずかではあるが、「そのような人はいない」と答えており、相談窓口の周知に加え、地域コミュニティの再構築も課題である。

(9) フレイル・オーラルフレイルについて

[フレイルについて]



◆フレイルとは…

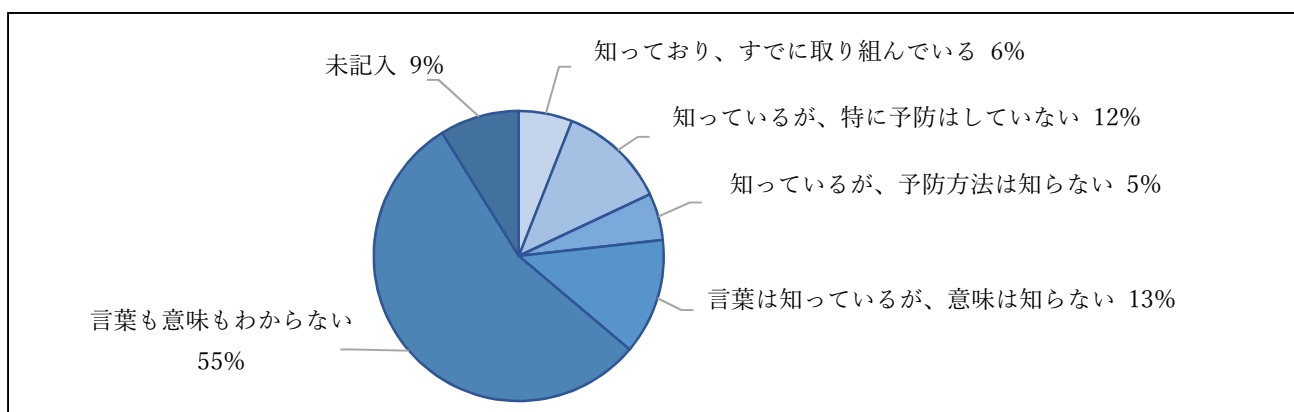
加齢に伴い筋力や活動が低下している状態。
(健康な状態と要介護の状態の中間の状態)

◆オーラルフレイルとは…

嚙んだり、飲み込んだり、話したりするための口腔機能が衰えること。

食欲不振や栄養状態の悪化など、全身の衰えにつながってしまう。

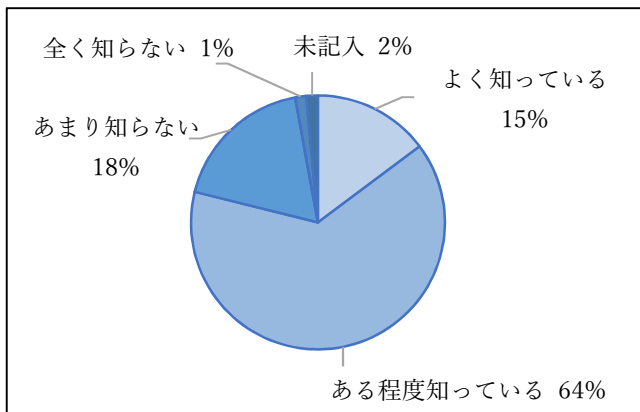
[オーラルフレイルの言葉や意味、予防方法について]



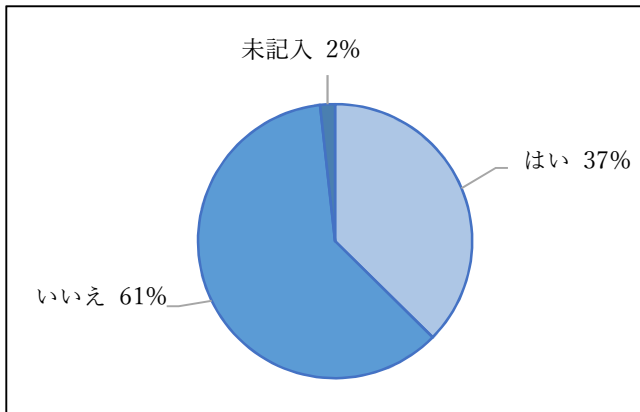
フレイル・オーラルフレイルについて、「言葉も意味も分からない」と回答した人が半数以上になっている。フレイル・オーラルフレイル予防事業の実施だけでなく、まずは、言葉や意味、予防方法等を知ってもらうことから始める必要がある。

(10) 認知症について

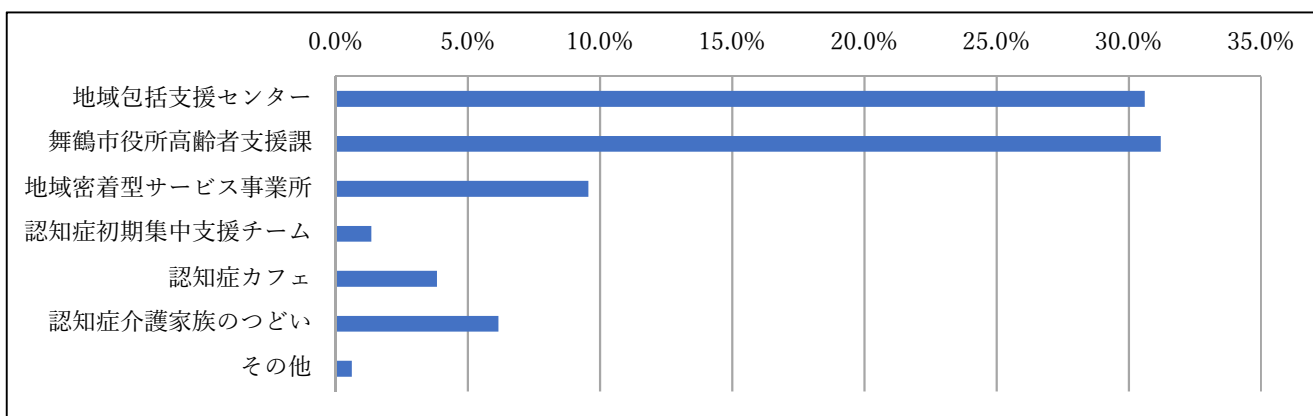
〔認知症についてどの程度知っていますか〕



〔認知症に関する相談窓口を知っていますか〕



〔認知症に関する相談窓口のうち、すでに知っている窓口はどこですか〕

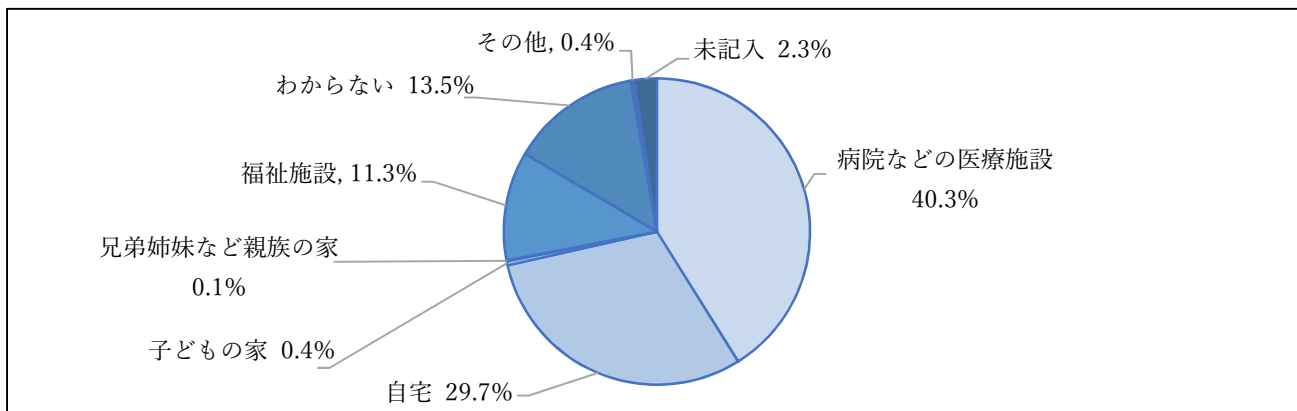


認知症について、「よく知っている」「ある程度知っている」と回答した人は約8割あるが、相談窓口については「知らない」と回答した人が6割となっている。

約3割の方が地域包括支援センターや市高齢者支援課を窓口として知っているとは回答しているが、認知症の早期支援のためにも、相談窓口についてより広く周知することが重要である。

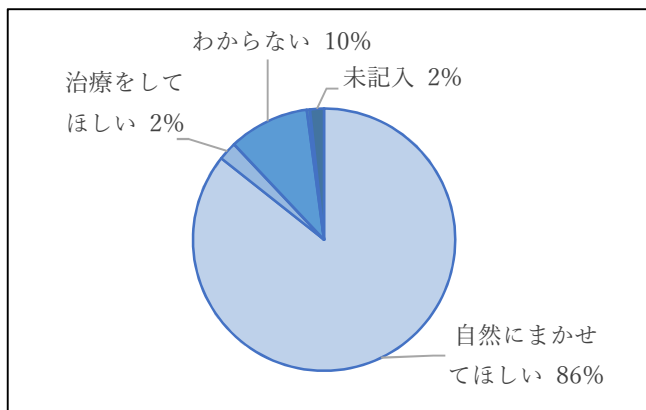
(11) これからの生活

〔がんや脳梗塞などにより医療と介護が同時に必要になった場合、どこで暮らしたいか。〕



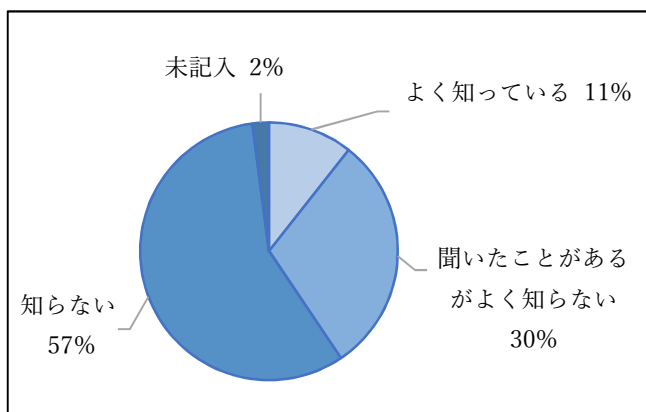
医療と介護が必要になったときに暮らしたい場所としては、「病院などの医療施設」と回答した人が最も多く、約40%を占めた。次いで自宅、福祉施設という結果となっている。

[延命治療について]



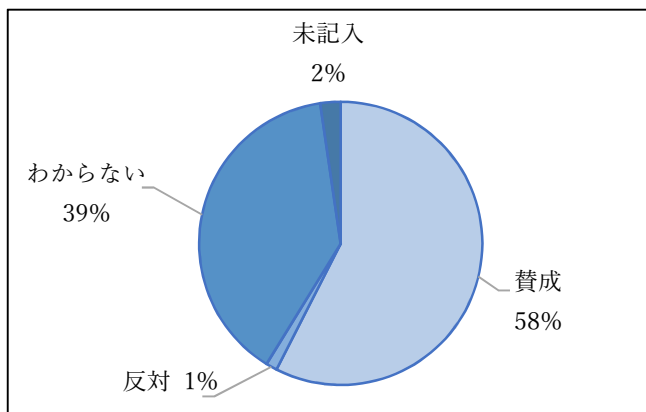
延命治療については、「自然にまかせてほしい」と回答した人が86%と多く、積極的な延命は望まない人が多かった。

[人生会議(ACP)¹について知っていますか。]

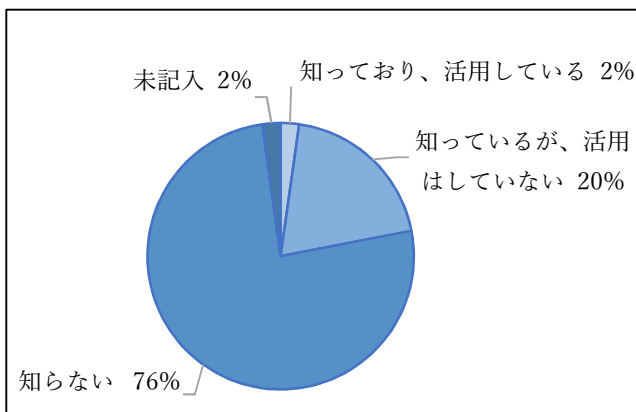


人生会議(ACP)については、「聞いたことがあるがよく知らない」「知らない」と答えた人が87%という結果であり、今後、啓発に力を入れていく必要がある。

[老い支度²についてどう思いますか。]



[まいづる老い支度ノートについて]



意思決定できなくなった時に備え準備しておく老い支度について、6割弱が「賛成」と回答している反面、約4割が「わからない」と回答しており、今後も老い支度についての周知・啓発を行っていく必要がある。

¹ 人生会議(ACP)：アドバンス・ケア・プランニングとは…

万が一のときに備えて、大切にしていることや望み、どのような医療・療養を望んでいるかについて、自ら考え、家族や医療・ケアチームなど信頼する人たちと話し合うこと。

² 老い支度とは…

自分が意思決定できなくなったときに備えて、どのような医療・療養を受けたいか、などを記載した書面をあらかじめ作成しておくこと